

新川水土里たより

第14号

新川農林振興センター農業農村整備広報・広聴連絡会 〒937-0863 魚津市新宿10-7 0765(22)9137【指導課】
新川農林振興センターホームページ http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1630/index.html

第14回とやま森の祭典」で 土地改良をPR

5月24日(金)滑川市スポーツ・健康の森公園にて「第14回とやま森の祭典」が開催され、農林業関係者や一般の方など約2,000人が参加されました。また、今回の森の祭典は置県130年並びに滑川市制60周年の記念行事として行われました。



職員から土地改良事業についての説明を受ける参加者

会場には多くの展示コーナーが設けられ、当センターからは森林関係、農業関係及び土地改良事業関係を紹介する展示ブースを設置しました。

土地改良事業関係を紹介する展示ブースでは、管内の事業実施地区や小水力発電などを紹介するパネルを設置し、多くの参加者に見学していただきました。

【指導課 計画班】

事業地区紹介 ため池等整備事業 片貝川沿岸地区

ため池等整備事業「片貝川沿岸地区」は、水路決壊による農地や民家等への被害を未然に防止するとともに、用水の安定供給を図ることを目的として、平成23年度から平成27年度までの5年間で用水路の改修を行っています。

対象路線は、魚津市の二級河川片貝川(黒谷頭首工)から取水し、下流域の約250㍍をかんがいする右岸幹線用水路(隧

人が輝く新川地域の元気な農業・魅力ある 農村をめざして(その2)

所長 作井英人

この4月で新川農林振興センター所長を拝命してから、二年目となりました。管内の皆様には、平素、当センター管内の農林業の振興や農業・農村整備事業の推進に、格別のご理解とご協力を賜り、心から敬意と感謝を申し上げます。

富山県は、今年で、置県130年の節目を迎えましたが、先人の皆様がこれまで苦勞を重ね、営々と築き上げてきた農業水利施設や肥沃な水田は、良質米の生産はもとより、洪水の防止や美しい農村風景を形成し、新川地域発展の基盤を作ってきたものと思っております。

このような歴史を踏まえ、新川地域においては、農業の担い手の育成を基本として、農業経営の体質強化を図るため、消費ニーズを踏まえた、一層の低コスト生産や、園芸作物や農産加

道)と天神野用水路の約790mの区間です。この施設は、築造から約50年以上経過しており、近年では沿線法面からの崩壊が発生するなど、その崩落による水路決壊等の危険性が高まっていることから、早急に改修する必要があると考えています。

【農村整備課 水利防災班】



老朽化して改修が待たれる天神野用水路

工等の導入による経営の複合化北陸新幹線の開業を見据えた農業の六次産業化等を推進していくことが重要であると考えております。

また、農業の持続的な発展を図るため、環境に優しい農業生産や農村環境の保全、中山間地域の活性化、再生可能エネルギーの利用等も進めていく必要があると考えております。

これらを加速するため、平成25年度においては、継続事業に加え、新規要望地区の中から、国の緊急経済対策に伴う平成24年度補正予算により、朝日町窪田地区で大区画ほ場整備を実施するほか、滑川市鋤川地区で農業用水を活用した小水力発電施設の整備、黒部市愛本新地区で愛本新用水路の改修工事を前倒しで着手することになりました。

イベント情報

作品を募集しています!

『第3回とやまの農山村写真展』
テーマ 守ろう!伝えよう!美しい農山村
募集期間 平成25年7月8日(月)~11月15日(金)
お問合せ先 富山県土地改良事業団体連合会
(水土里ネット富山)
TEL: 076(424)3300(代)

編集後記

6月18日に県内は梅雨にりましたが、晴れの日が多く、梅雨を感じさせない天気が続いています。7月1日(国民安全の日)に管内の農業用ため池及び地すべり防止区域の巡視活動を実施したところ、概ね良好に管理されておりました。これも農家の方や土地改良関係の方が大雨等により被災しないように、日頃から土地改良施設を大切にされておられるからだと思えます。

今後とも土地改良施設が大切に守られ続けることを祈るばかりです。【折川】

豊かな水や整備された農業水利施設等新川地域の素晴らしい資源を活かし、人が輝く、元気な農業・魅力ある農村をめざして、地域の皆様と共に、職員一同頑張つてまいりたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願ひ申し上げます。



目次

所長挨拶	ページ (1)
土地改良施設紹介	(2)
養輪堰堤の歴史	(1)
優良無花粉スギ	(2)
「立山 森の輝き」を植樹	(3)
新規地区紹介	(3)
経営体育成基盤整備事業	(3)
窪田地区	(3)
「第14回とやま森の祭典」で	(4)
土地改良をPR	(4)
事業地区紹介	(4)
ため池等整備事業	(4)
片貝川沿岸地区	(4)
イベント情報	(4)
編集後記	(4)

土地改良施設紹介

～ 養輪頭首工の歴史～

養輪頭首工は、早月川扇状地の扇頂部、滑川市養輪地先に設置された取水施設です。今回はこの施設が設置された背景などについて紹介します。

早月川扇状地に古くから開けた水田は砂質土壌であったため、水の浸透が多く、このことが稲



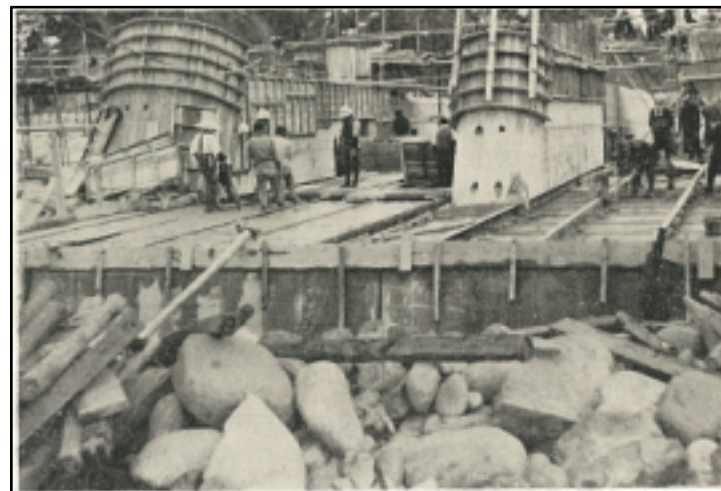
養輪頭首工
(右岸側下流より上流側を望む)

の生育に悪影響を及ぼしてしました。また、ひとたび干天が続くと、たちまち水不足を引き起こし、干ばつ被害が毎年のように発生していました。さらに、各用水の取水口は、7箇所に分散し、大水になるたびに補修をしなければならぬ状態でした。水不足の折には、水利協議会が開かれ、用水ごとに日時を決めて水を流す、「番水(ばんすい)」が実施されました。番水が行われる区域では、大急ぎで水をあて、水の取りすぎを防ぐため、昼も夜も見張りを付け、それでも、水の取り合いによる争いが起こっていました。昭和23年、24年には連続してひどい干天が続く農家は困り果てていました。

この問題を解決するため、当時、早月加積村長であった石坂専吉は取り入れの合口化を目指し、昭和25年2月から、周辺の町村長にその必要性を説明し、参加協力の要請を始めました。しかし、合口化に対しては根強い反対もあり、心労で石坂専吉

は倒れました。そのあとを引き継いだ石坂清も精力的に地域の説得にあたり、その甲斐あって、昭和27年7月に同意に至り、国営農業水利事業として事業採択にこぎつけることができました。事業は昭和28年に着手しました。約3500haの農地を受益とし、近代的頭首工と取水設備、約4300mの導水路等を新設し、昭和37年に完工しました。

受益地内では、昭和32年から昭和38年にかけて、水田の漏水抑制のため、流水客土が実施され、昭和40年から昭和48年にかけては、郷用水、鋤川用水、北野川用水、右岸の吉野川縁用水を改修しました。また、昭和44年から昭和48年にかけて、大浦用水、大崎野用水の改修が行われました。さらに、昭和53年から昭和55年にかけて、農業用水路の維持管理費の負担を軽減するため、早月川発電所が建設されました。近年では、平成18年から平成22年にかけて、県営基幹水利施設ストックマネジメント事業により、頭首工本体や水門等の各



建造中の養輪頭首工

施設の補修や平成20年から平成24年にかけて県営かんがい排水事業により吉野川縁用水の改修が実施されています。
【指導課 計画班】

優良無花粉スギ

「立山 森の輝き」を植樹

6月6日を「土地改良の日」とし

去る6月6日、魚津総合庁舎の前庭にて、置県130年と「十二貫野用水」の支川「龍の口用水」の石管展示パネルのリニューアルを記念して、庁舎管理を担う総合県税事務所魚津相談室の上野真里子室長と一緒に、富山県森林研究所が開発した優良無花粉スギ「立山 森の輝き」を植樹しました。
その日は、昭和24年に土地改良法が制定された日に当たり、

当センターでは、今年度より6月6日を「土地改良の日」として、農業・農村整備における先人のご労苦に感謝し、その重要性を広く啓発してまいりたいと考えています。

ご来所された折には、展示パネルと植樹した無花粉スギ「立山 森の輝き」を是非ご覧ください。

【所長】



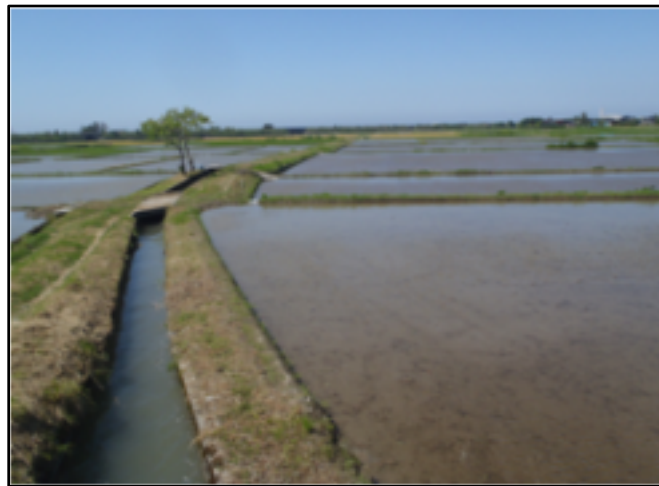
展示されている石管の横に優良無花粉スギ「立山森の輝き」を植樹する上野室長と作井所長

新規地区紹介

経営体育成基盤整備事業

窪田地区(朝日町)

今年度から平成30年度までの6年間、効率的かつ安定的な農業経営を確立し、併せて担い手の育成と農地利用集積を図ることを目的として、区画整理によるほ場の大区画化(51・3ha)、客土工(25・6ha)、水路及び農道等を総合的に整備する経



窪田地区の現況
(小区画のほ場が広がる)

営体育成基盤整備事業「窪田地区」に着手します。

当地区は、県東部の朝日町と入善町の境界に位置し、黒部川右岸扇状地に展開する地域で、大正2年～5年に耕地整理事業により10haの小区画に整備されました。

また、地区内には小区画のほ場の他にも不整形なほ場や狭小な農道があり、営農に多大な労力を要しています。さらに、現在の水路のほとんどが土水路であることから、水路口入による用水量不足や水路護岸の修復や泥上げ等の維持管理にも多大な労力を要しています。

なお、本地区の水路にはドジョウやホタルなどの稀少な生物が生息していることから、改修予定の水路の一部区画においては魚巣ブロックや植生ブロックを設置するなど環境に配慮した工法で整備することとしております。

今年度は、測量設計を行い、順次工事を行う予定です。

【農村整備課 農地整備第一班】



リニューアルされた「龍の口用水」の石管を紹介する展示パネル